

函館学  
2013

キャンパス・コンソーシアム函館  
合同公開講座

函館学 2013

第2回講座  
講義資料

函館発、イカ研究の最前線

桜井 泰憲 北海道大学大学院水産科学研究院 教授

日時：平成25年6月29日（土）午後1:30～3:00

会場：ホテル法華クラブ函館

主催：キャンパス・コンソーシアム函館

講師略歴

さくらい やすのり

**桜井 泰憲**

北海道大学大学院水産科学研究院 教授

専門分野は海洋生態学、水産海洋学（タラ類、イカ・タコ類の繁殖生態と資源変動機構、気候変化と亜寒帯海洋生態系変動に関する国際共同研究、北極海の魚類生態、海産生物の飼育技術開発など）。

岐阜県高山市出身。岐阜県立岐阜高校を経て、北海道大学水産学部水産増殖学科卒業・同大学院水産科学研究科博士課程修了。

日本学術振興会奨励研究員、青森県立浅虫水族館魚類飼育リーダー、北海道大学水産学部助手・助教授を経て、現在、北海道大学大学院水産科学研究院教授、副研究院長。

この間に、CIAC（FAO:国際頭足類諮問機構）組織委員会委員、Japan-GLOBEC（地球規模での海洋生態系変動）委員長、GLOBEC/ESSAS（亜寒帯海洋生態系国際共同プログラム）メンバー、知床世界自然遺産地域科学委員会委員、同海域ワーキング座長、中央環境審議会臨時委員、野生生物部会・自然環境部会委員、水産海洋学会会長、日本水産学会副会長を務める。

受賞歴は「タラ類・イカ類の飼育研究」で「水産海洋学会・宇田賞」、「スルメイカの資源変動に関する研究」で「水産学会・進歩賞」、「知床世界自然遺産海域の生態系の保全と持続的漁業の共存への貢献」で「環境保全功労賞」。

著書に「海水魚の繁殖」「水棲無脊椎動物の最新学」「イカの春秋」「スルメイカの世界」「日本海学の新世紀6 海の力」「レジームシフトー気候変動と生物資源管理ー」「研究する水族館,水槽展示だけではない知的な世界」「地球温暖化問題への農学の挑戦」「サケ学入門」「新鮮イカ学」「海洋保全生態学」「オホーツクの生態とその保全」など。

## 函館発、イカ研究の最前線

桜井 泰憲 (カライ ヤスリ, 北大大学院水産科学研究院・教授)

青森県の浅虫水族館で初めてスルメイカの飼育に取り組んで、すでに30年が過ぎようとしています。これまでに、スルメイカの採集から輸送、2カ月以上の長期飼育、成長と成熟、産卵行動の解明、人工授精方法の開発、気候変化と資源変動の関係の解明、そして今、「イカ活ヲ器」の開発によって、高鮮度のイカが流通できるところまで来ました。すべてを詳しくお話することは、とてもできません。本日は、その一番重要な部分だけを、紹介します。そしてもうすぐたどり着けそうな「私の夢」もお話します。

### 【本日の講演の流れ】

- 1) イカってなにもの？ イカは貝の仲間・軟体動物。イカとタコの違いは？
- 2) 窪寺恒己博士と生きたダイオウイカ！
- 3) 空を飛ぶイカ！ なぜイカは滑空できる？
- 4) なぜ、イカは漁火に集まる？ LEDを漁火に！
- 5) スルメイカ類の飼育研究は、北大水産だけ！
- 6) イカの頭の中の結晶（平衡石）で誕生日が判る！
- 7) アニサキスにご注意！
- 8) スルメイカの寿命は1年で日本一周。私は「季節の旅人」と呼んでいる
- 9) 寒い年が続くと、マイワシが増え、暖かい年が続くとスルメイカ、ヤリイカが減る
- 10) スルメイカの資源変動を気候変化から探る。風が吹けばイカが減る！
- 11) 繁殖生態の謎を解く（巨大な透明卵塊の産卵からイカの赤ちゃんの生存できる環境を探る）
- 12) 産卵には、大陸棚が必要、その上の水温は、19.5℃から23℃の範囲
- 13) 人工衛星からの海面水温の情報だけで、スルメイカの産卵場が見つけることができる！
- 14) 最近のイカの獲れ方が変化した理由は、夏—秋が暑く、冬—春が寒い！
- 15) ここ数年間、晩秋にオホーツク海でスルメイカが大漁の理由は？
- 16) 活イカと高鮮度イカの品質保持、おいしくて新鮮なイカを食卓へ！
- 17) 函館のイカは、日本一新鮮、でも「イカ活ヲ器」をなぜ開発したか！「地鮮地食」の薦め
- 18) 一瞬にして、活きたイカを活ヲする方法。どのように？12-15時間後も「朝どりイカ」？
- 19) イカは鮮度で食べるか、旨味で食べるか、時間との勝負
- 20) 活イカの街、佐賀県・呼子、山口県・萩では、活ヲ器が好評！では、函館は？
- 21) スルメイカとイワシの群れを水槽で再現！イワシの大群にスルメイカを入れたらどうなる？
- 22) 2015年秋には、世界のイカ・タコ研究者が函館に大集結！